

強度行動障害者支援者養成研修

伝達研修

放課後等デイサービス

わくわくクラブ

強度行動障害とは

自傷、他傷、物壊し
多動、こだわり等
本人や周囲の人の
暮らしに影響を及ぼす行動



×もともとの障害

○その人の状態

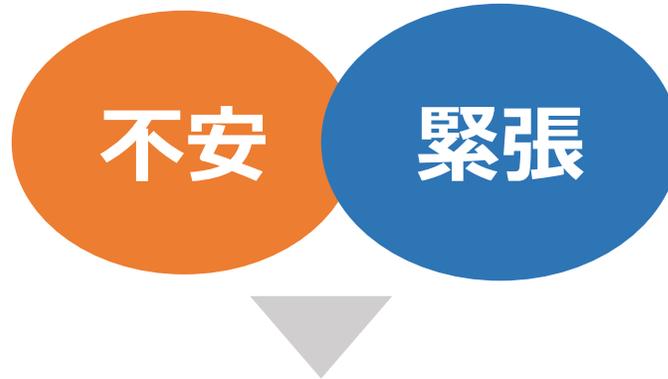
著しく高い頻度
で起こる

特別に配慮された
支援が必要

なぜ、強度行動障害になるのか

障害からくる苦手さにより、

- ・先の予測をすることが難しい
- ・見えないものの理解が難しい
- ・抽象的であいまいな表現の理解が難しい…



周りに迷惑をかける激しい**行動**などで気持ちを表す

強度行動障害が定着するしくみ

適切な行動を教えられていない⇒

障害からくる苦手さが
解消されない

気持ちを伝えるために⇒

激しい行動をとる

周囲が誤った対応を繰り返す⇒

自分の気持ちが伝わると
理解する

激しい状態が**定着**

では、どのようにしたらいいのか？

予防

軽減

社会参加

幼児期、児童期の支援の大切さ

小学校後期までに適切な対応を行わないと、
その後も行動障害が重篤に



幼児期、児童期に

適切なかかわり(本人に合った学び方でコミュニケーション方法を身に着けること等)が重要

適切な支援のためには

- ◆ 本人は困らせている人ではなく、「困っている人」という視点を持つ。
「困っている人(子)」= 合理的配慮が必要な人
- ◆ 「特性」を把握する→「特性」に対して、
環境が「ミスマッチ」かどうか検討する。
- ◆ その人の「行動」を手掛かりにする。
また、その「行動の背景」には何があるのかを考える。

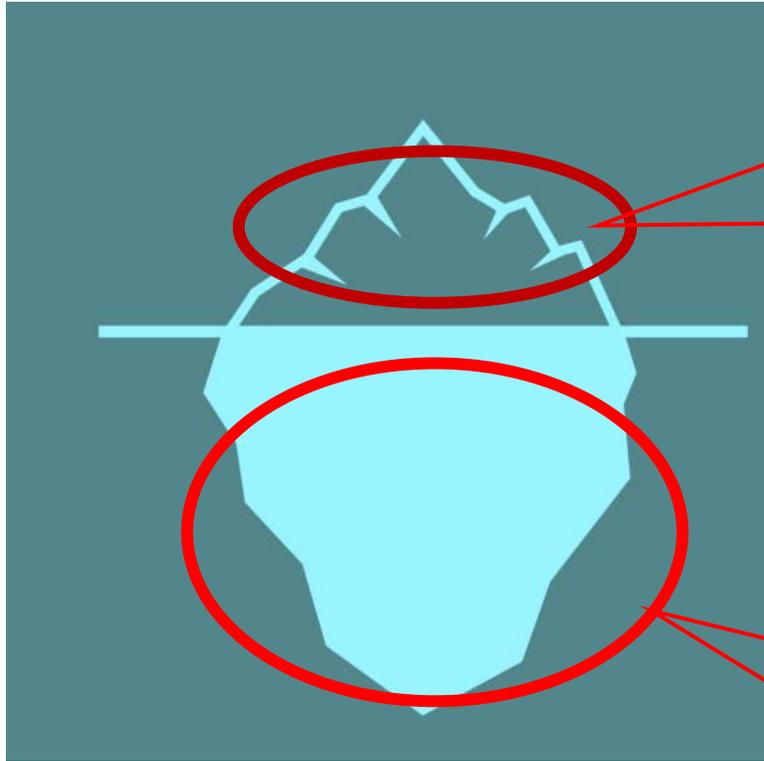
情報共有の意味

いつ・どこで・どのような行動をとっているか等
具体的な情報から正しい状態像を知る。



その人に合った支援につながる

行動の背景を知るための「冰山モデル」



氷山の一角が目に見える部分

目に見える部分だけに対応しても問題は解決しない

水面下に大きな塊がある
=目に見えない部分

目に見えない部分を理解してアプローチすることで、表面に出ている問題が小さくなる。

「冰山モデル」を使った演習

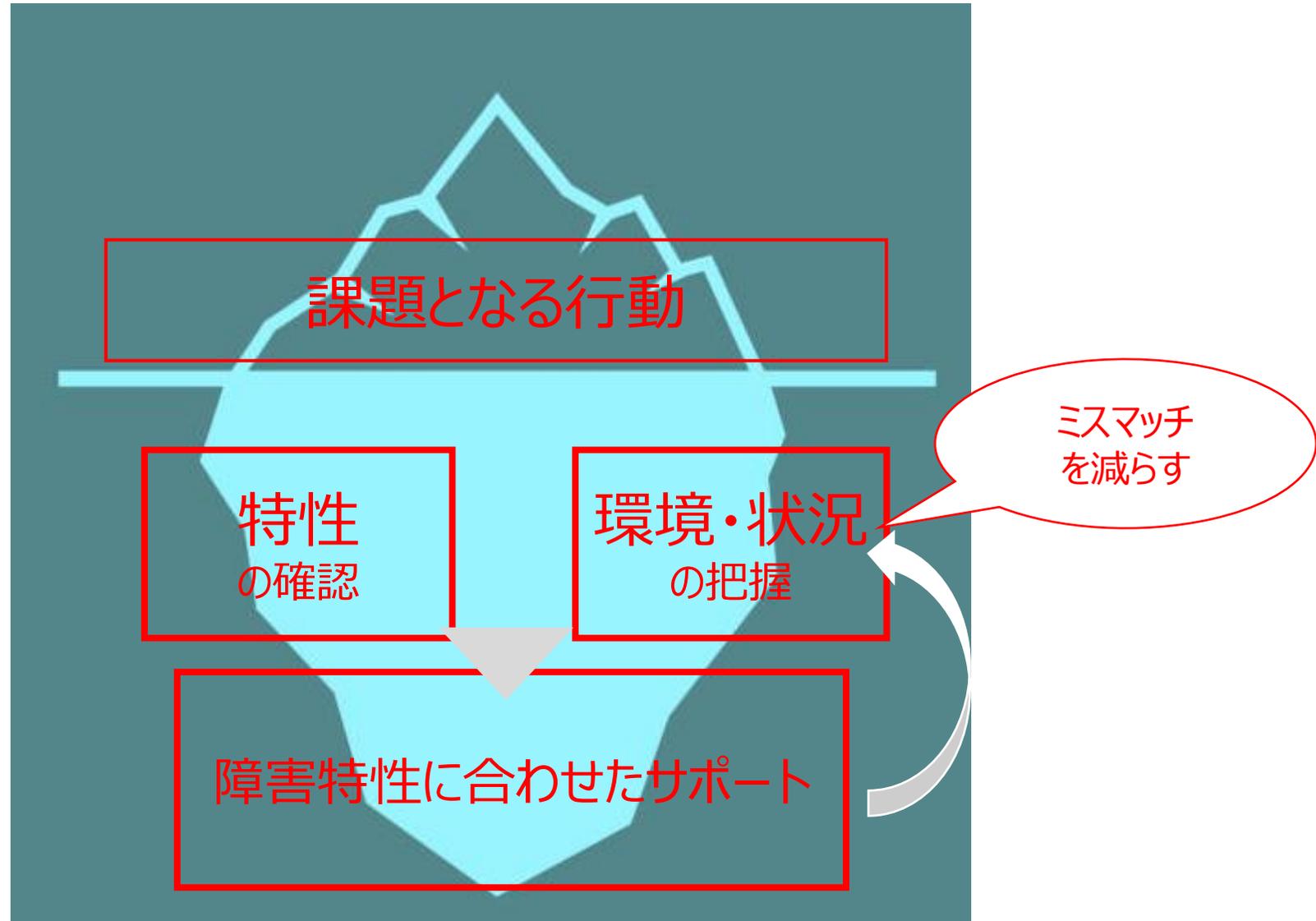
- 行動チェック(「課題となる行動」は何なのか)
- 特性確認(どのような特性があるのか)
- 環境確認(人、物、場所などはどうであったか)

「課題となる行動」・・・強度行動障害にあたる行動

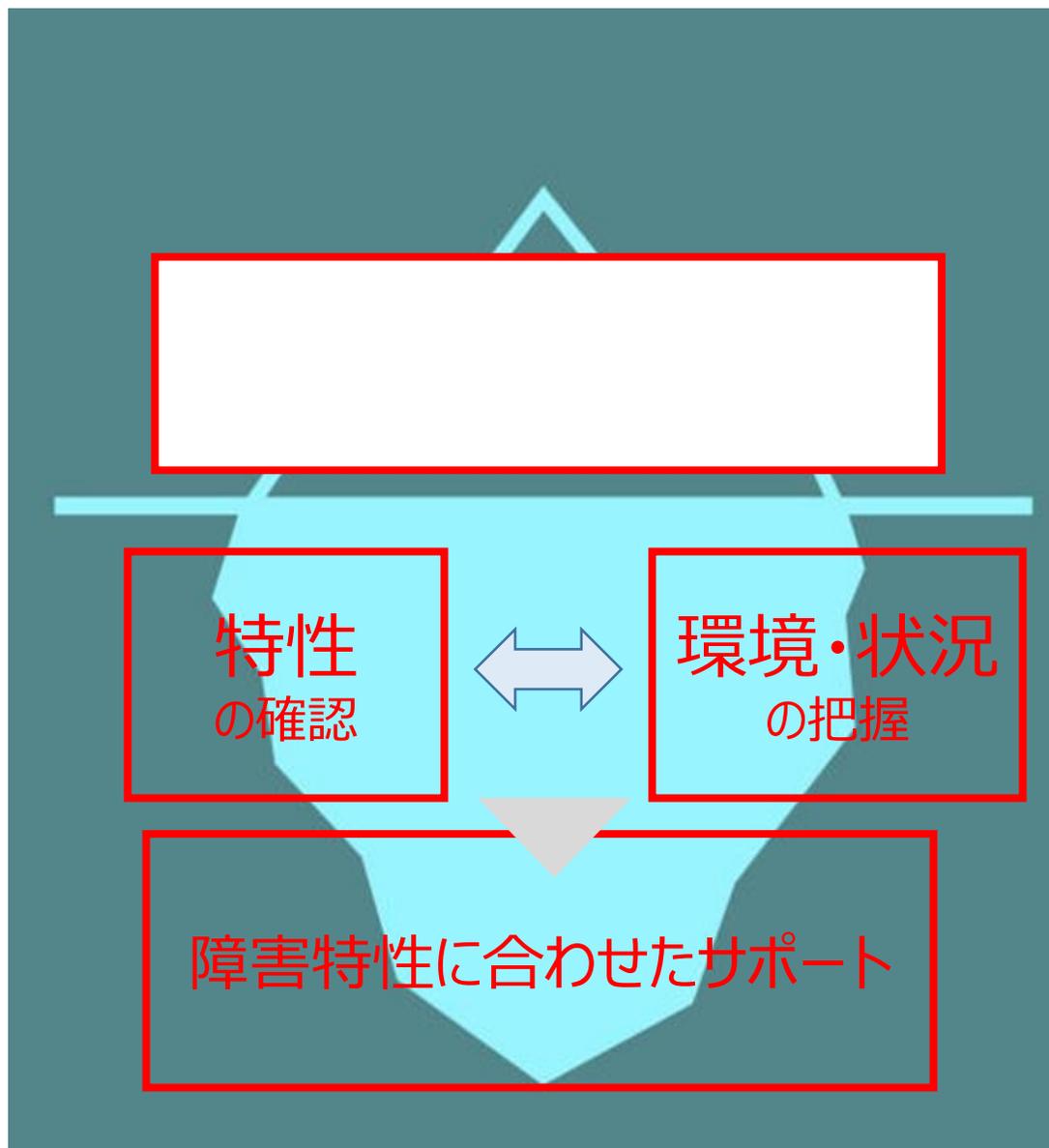
1. 自分自身の生命あるいは健康に著しい危険を与える行動
2. 周囲あるいは状況に著しい危険ないし混乱を与える行動
3. 自分自身の意味ある活動への参加や学習を著しく妨げる行動

※以上3つの条件のうち、少なくともひとつに該当する行動と言われる。

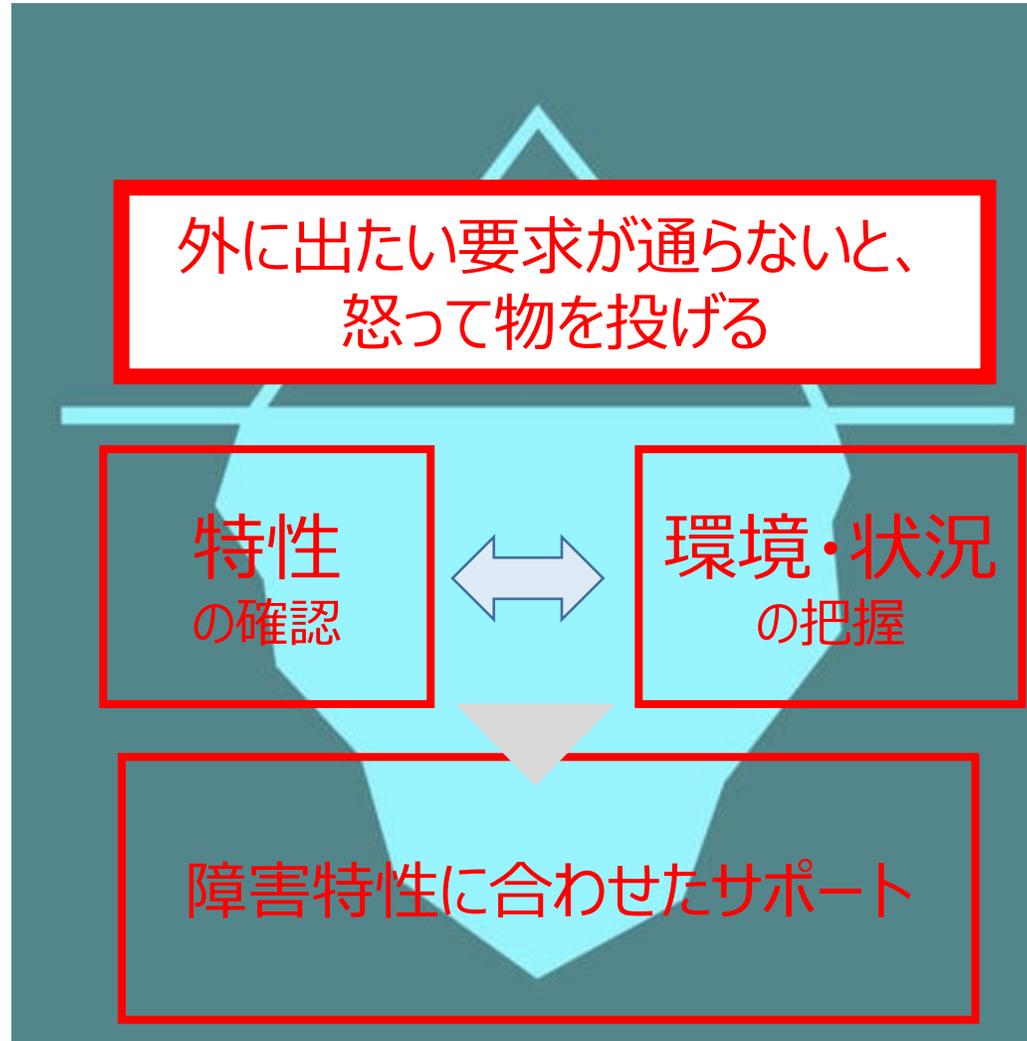
「氷山」モデルシート①・・・利用者さんを例に



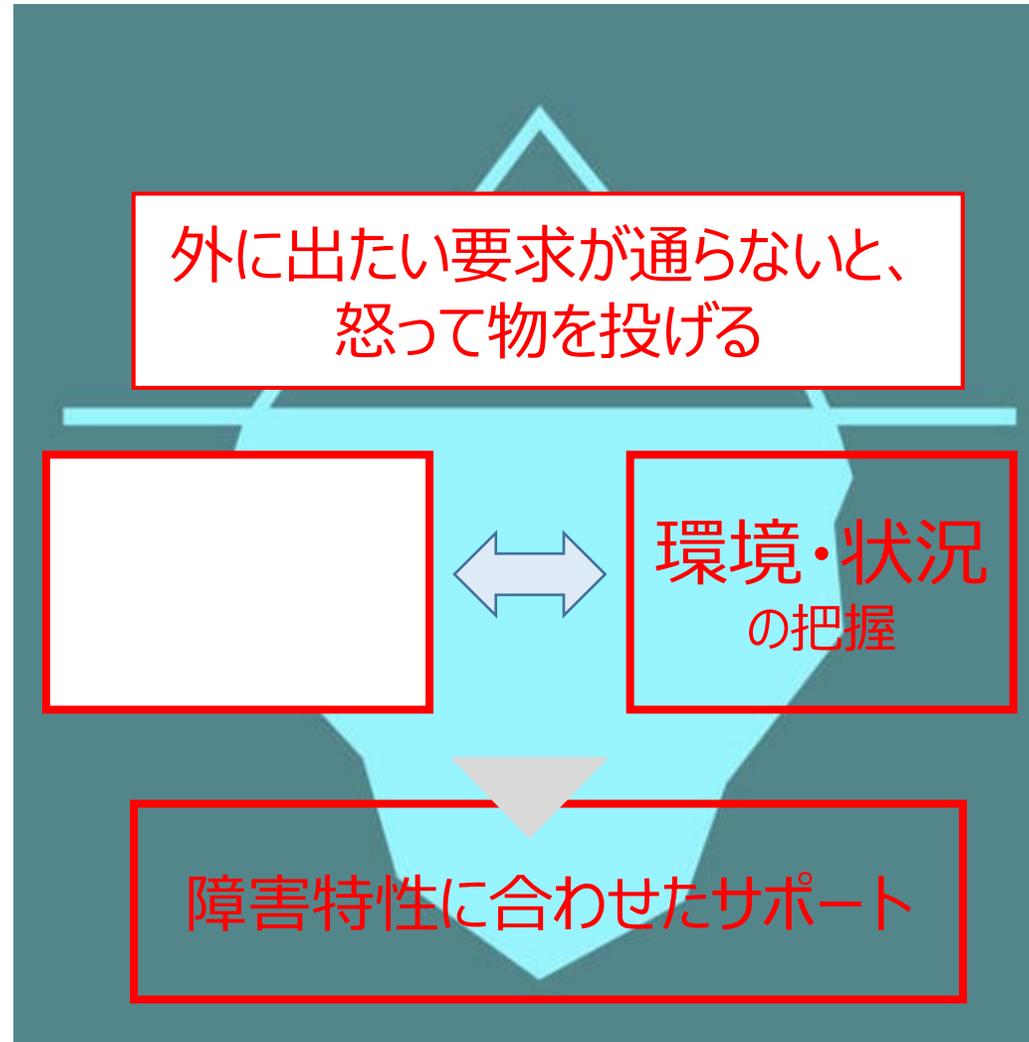
「冰山モデル」シート②・・・空欄を記入してみてください



Sさんの「課題となる行動」



「冰山」モデルシート③・・・空欄を記入してみてください



本人の特性を整理する



相手への関心が薄い

どのようにして伝えたらいいかわからない

興味関心が狭くて強い

先の予測をすることが難しい

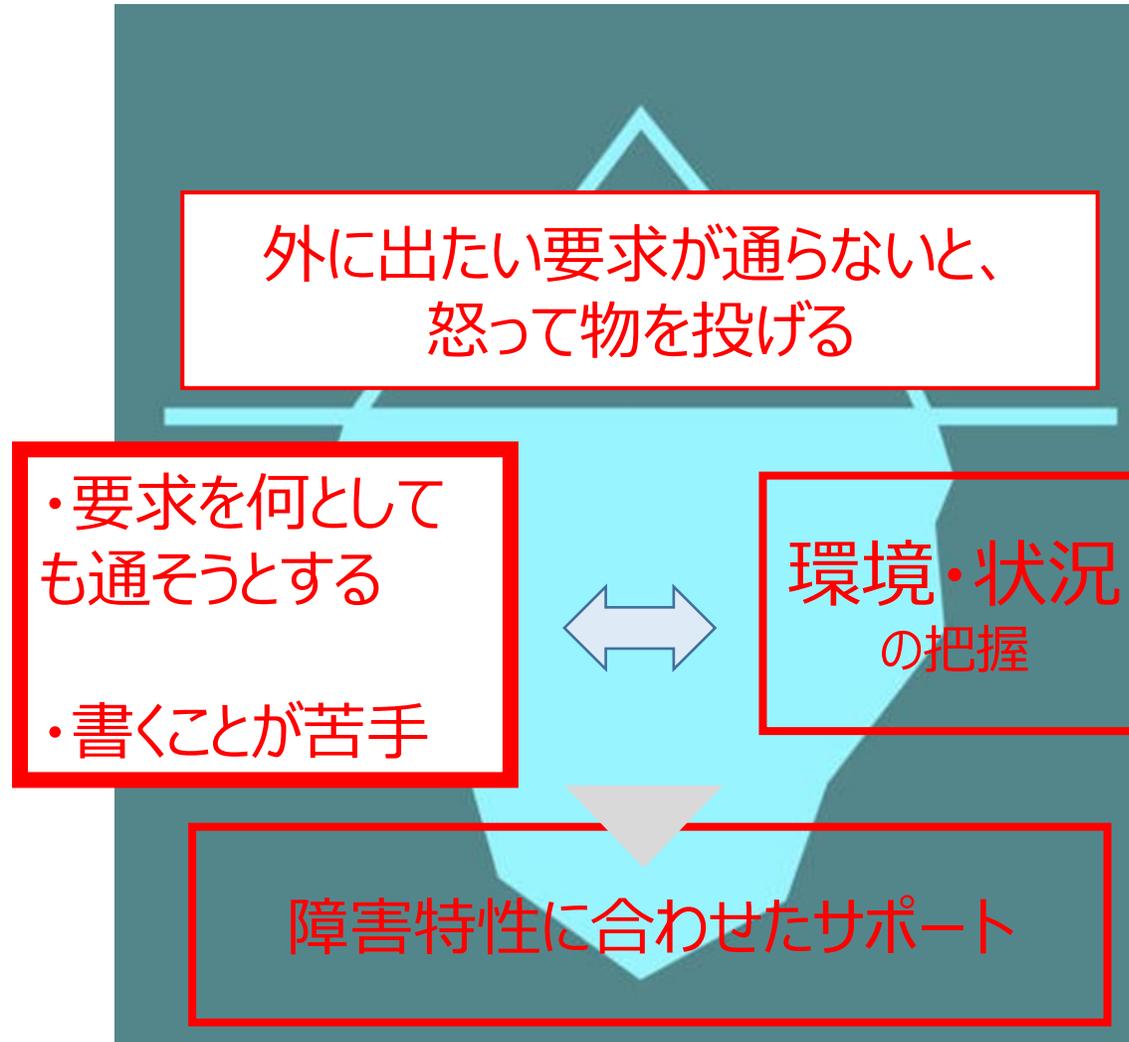
今やることを自分で判断することが難しい など

社会性、コミュニケーション、想像力、感覚……

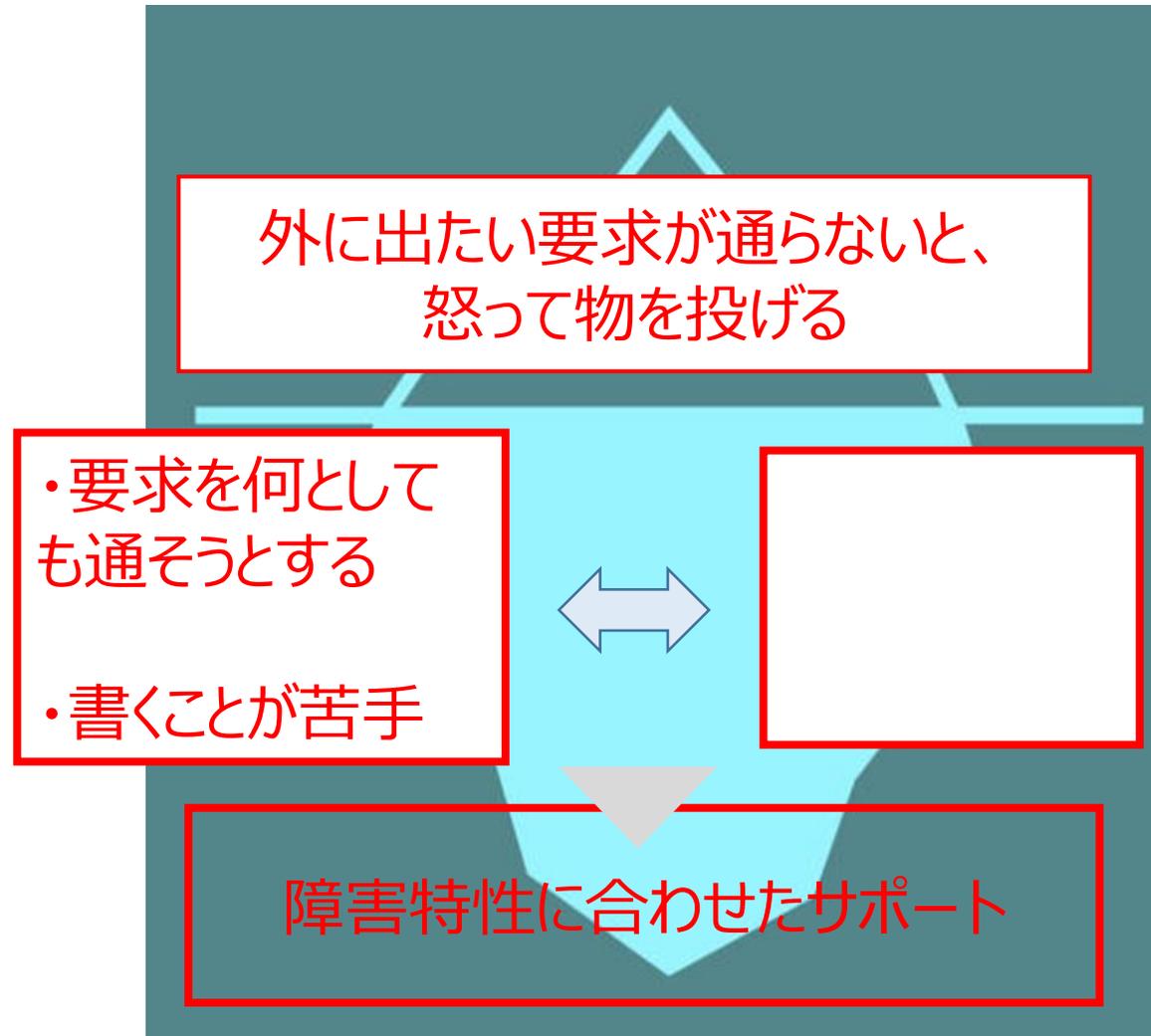
▶ 利用者が何に困っているのかを考えることで

改めて、**苦手さへの配慮に気づく**

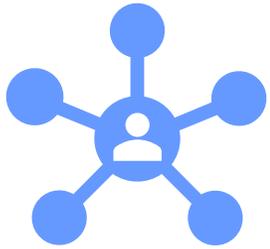
Sさんの「特性」



「冰山」モデルシート④・・・空欄を記入してみてください



環境確認



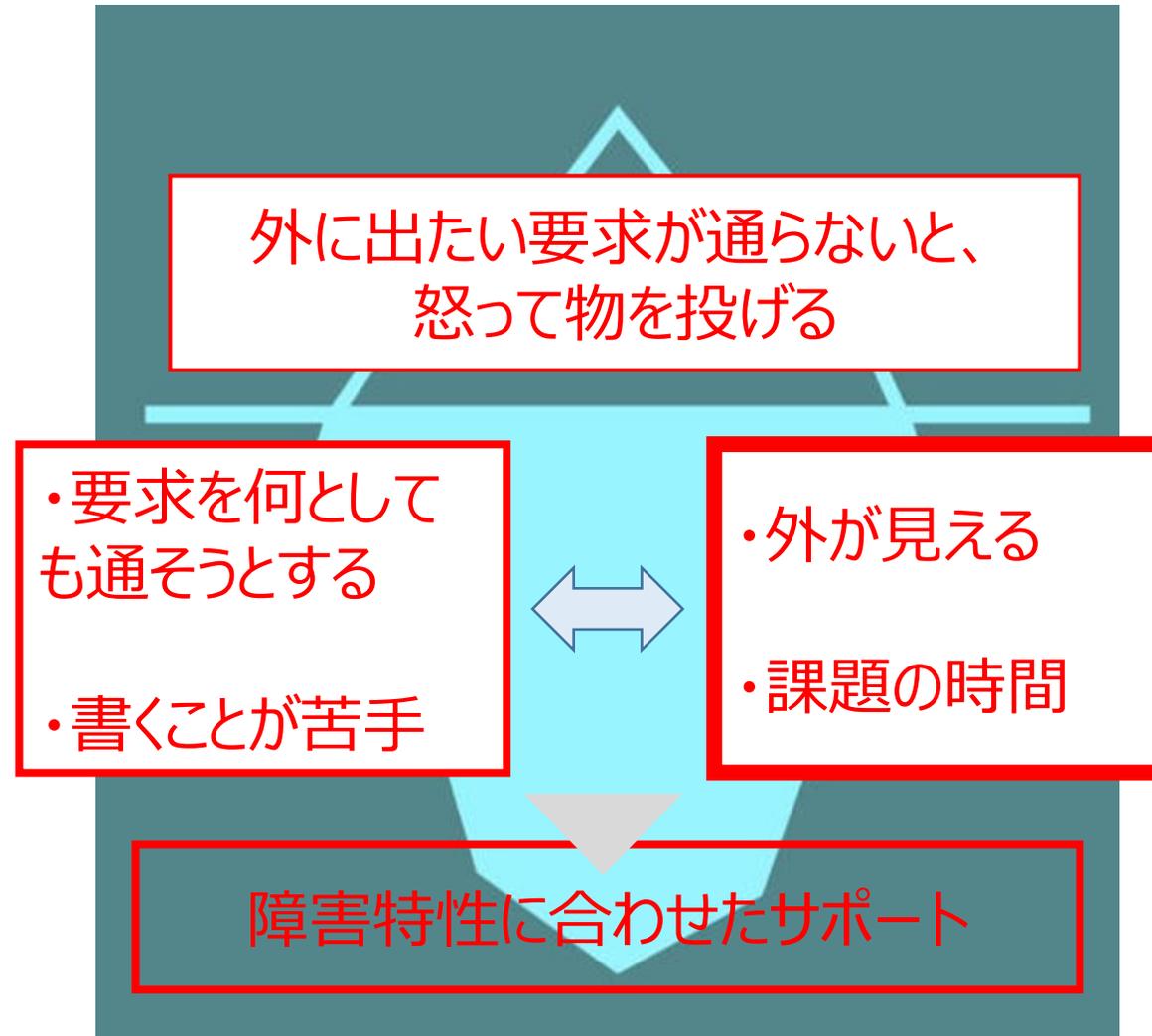
支援者からの指示は何で出していたか

見えると気になるような物が置いてあるか

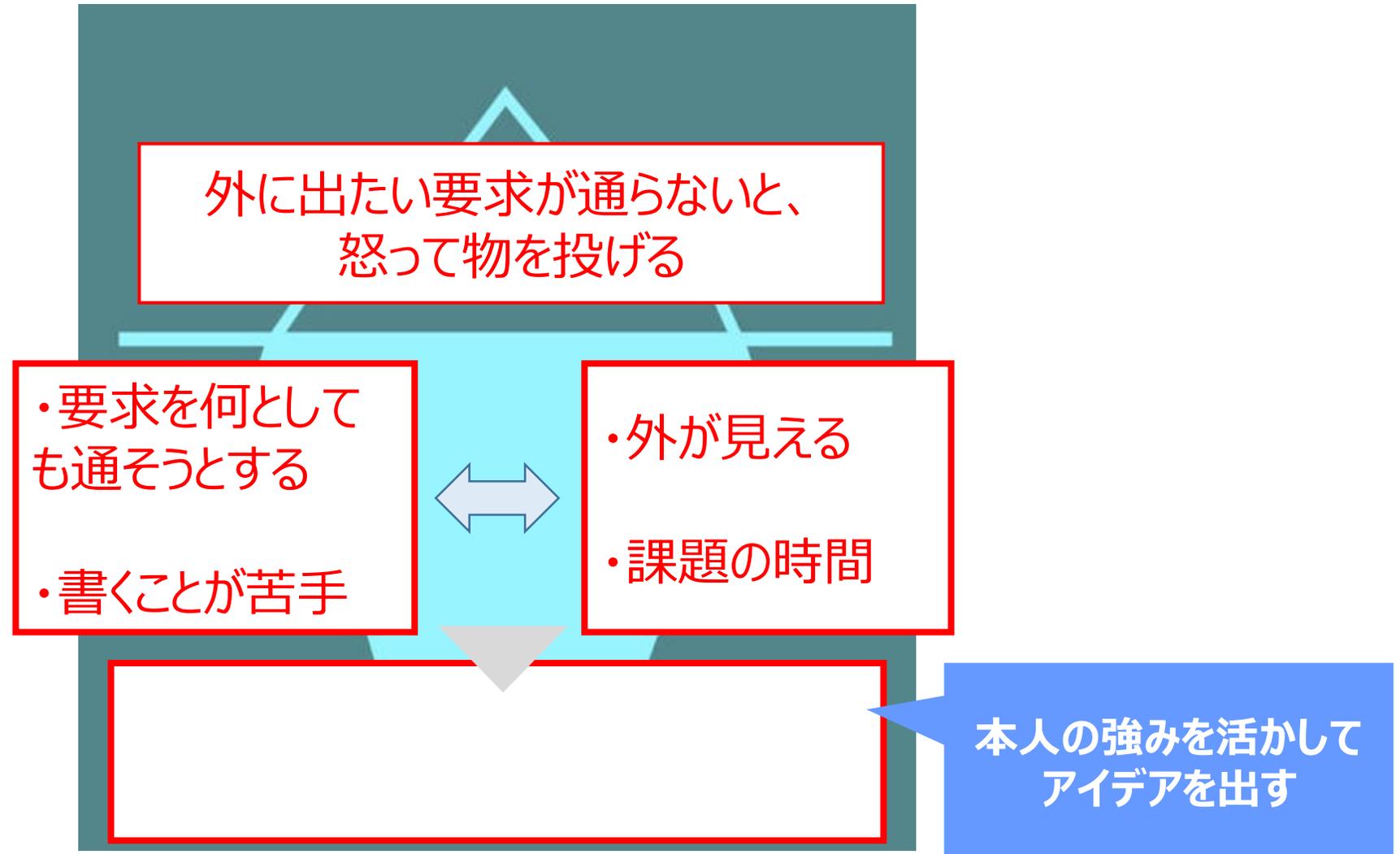
何をすべき場所なのか見ればわかるようになっているか

など

Sさんの「環境・状況」



「冰山」モデルシート⑤ ……空欄を記入してみてください



強み(ストレングス)を活用する

わかること・できること

・・・伝えられた決まりごとを守ることができる

(例)

- ・「倉庫には先生と一緒にいる」という決まりを覚えてと守っていた。
- ・「外に〇〇時〇〇分まで出ます」というと、その時刻まで待てる。

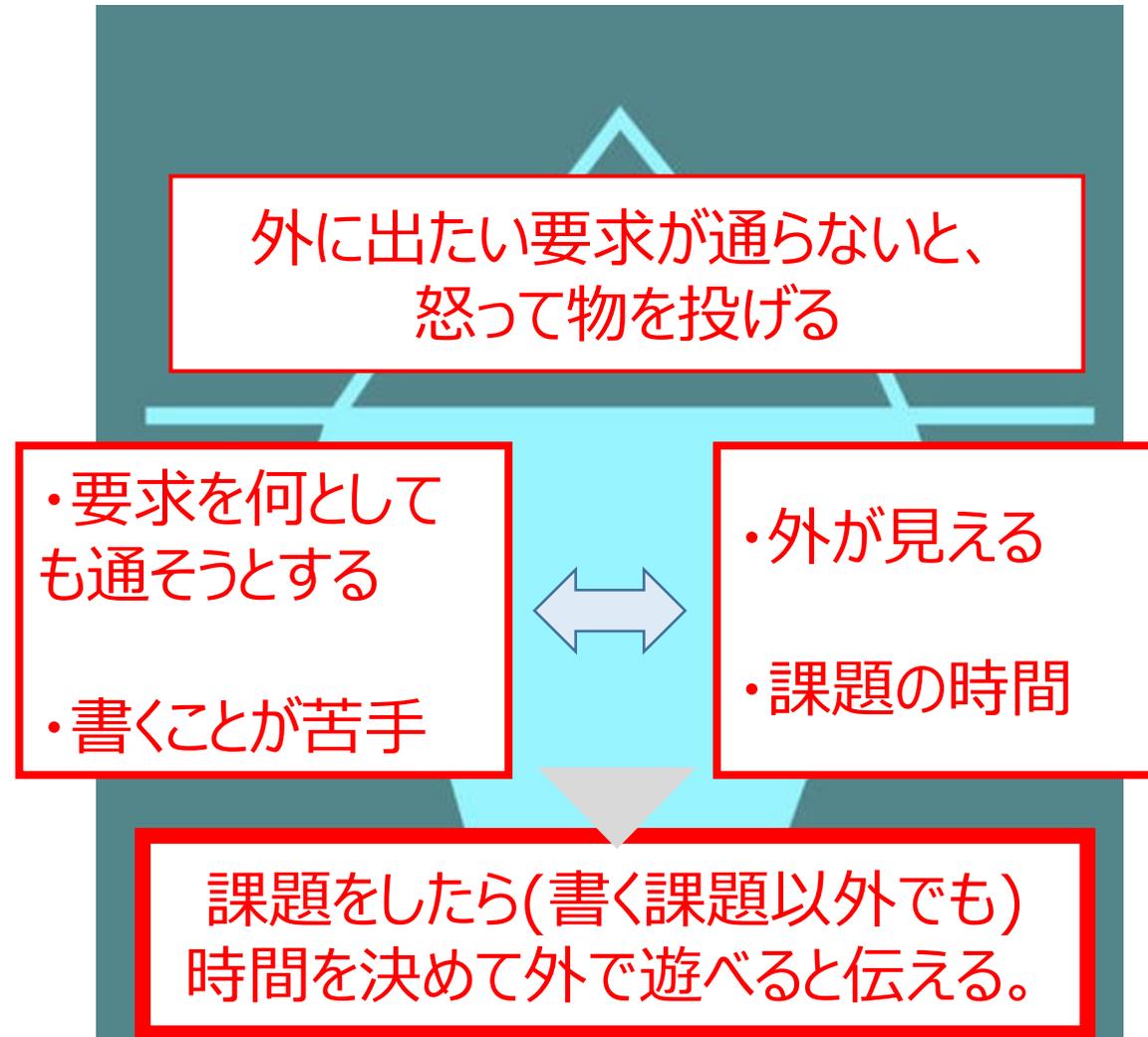


活かせそうな場面

外に出たいと要求があった際に

「課題をやったら〇〇時〇〇分まで外に行けます」と伝える

Sさんの「冰山シート」完成！



チームプレイの必要性

それぞれの関係者が、本人の特性に関係なく
思い思いのやり方で接してしまうと、本人が混乱してしまう



本人にかかわる支援者が
本人を中心としたチームの一員として
同じ方針に沿った統一した支援をする

支援を振り返ってみる



情報の共有のあり方・やり方



記録のあり方・やり方



支援の変更点共有・実施時期